



# すずの郷の夏休み



今年もまた、すずの郷の夏休みは子どもたちの声であふれていました。ちびっ子コラボ企画と題して、子どもとお年寄りと一緒に参加できるイベントを企画しました。子どもから学ぶこと、お年寄りから学ぶこと、夏休みならではの光景がたくさんありました。子どもたちが近くにいるだけで笑顔になります。いけないことをしたときはお年寄りがしっかり叱って下さいます。また、地元の中学生・高校生の職場体験もありました。皆さん貴重な夏休みの体験になったことと思います。



すずの郷の夏休みは賑やかであつという間に終わってしまい、少し寂しい気もしますが、また来年も、子どもたちが喜んでくれるイベントや、子どもたちに伝えなければならぬことをお年寄りと一緒に計画し、すずの郷を盛り上げていきたいと思ひます。



今回は、子供たちと一緒に過ごしたすずの郷の夏休みのご紹介です。ちびっ子コラボでは戦争体験を聞こう・竹とんぼ作り・書道・流しそうめん・スライム作り・石鹸作りを一緒に行いました。(浜嶋いづみ)



# すずの郷



72号

## 戦争体験を聞こう

入居者さんのほとんどが、戦争と共に貴重な青春時代を過ごされました。入居者さんの戦争の生の声を子供たちに届けたいと企画した『戦争体験を聞こう』入居者さんが涙ながらに話される話を戦争のことをあまり知らない低学年の子たちもじっと聞き入っていたのが印象的でした。

今回は、西館の蒲均さんに戦争体験をお話しいただきました。蒲さんのお部屋に一冊の本があります。その本はご自分の戦争体験を手記として残した全183ページにも及ぶもので、小学5年生で満州から日本へ帰国するまでの1年2か月16日間の

壮絶な記録です。この記録は、蒲さんが40歳の頃、2年をかけて書き記したもので、ちびっ子コラボ企画の当日は、娘様も一緒に参加してくださり、この本を元に、蒲さんの心の内をお話くださいました。「一人でも多くの人に伝えたい」そんなお二人の思いが参加者の心を震わせました。~戦争という大きな過失の中でのこの尊い犠牲が、また苦難の限りを味わいつつ耐えた我々同胞の血のにじむ様な体験が明らかされない事実のままで、遠い過去の歴史の中に埋没し、葬り去られてよいものだろうか。そして私は自分自身の薄れゆく記憶を蘇らせ当時を忍ぶ追憶のため、あえて筆をとったのであります。二人の弟よ、おっ母アよ、安らかに眠れ~本の最後、結びの言葉です。目の前で、本来亡くならなくてもいい子どもたちが飢えて何人も亡くなっていったこと、満州からの引き上げの汽車に乗れた老人のこと...など手記には手書きの挿絵もあり、来てくれた子どもたちも一生懸命に理解をしようと見入っていました。「戦争は絶対にダメ、たくさんの人を命を奪った、苦しみしか残らない」蒲さんのお話を聞いて、参加者のお年寄りの皆さんが口々におっしゃいました。「自分が生きているのはただ運がよかっただけ」柏原さんも言われます。壮絶な時代を耐え抜かれたお年寄りに感謝の気持ちを日々表していくことが、何よりも私たちの今、出来ることではないかと思ひます。辛いお話を勇気をもってしてくださったことにも重ね重ねお礼を申し上げます。

本当にありがとうございました。

(内藤かすみ)



蒲さんと娘さん 貴重なお話をありがとうございました



真剣に話を聞く子供たち



仲良しの高洲かめきさんと海津温泉に出かけた後藤富子さんと海津温泉に笑顔を温かいお風呂に浸りながら大満足のよおかけつけに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

今月のベストショット

## 竹とんぼ作り

竹とんぼ作りでは福田静江さんの息子さんが先生となってくださいました。低学年の女の子も一生懸命に力を入れて小刀に挑戦していました。完成し、さっそく飛ばしてみました。最初はうまく飛びません。



お年寄りも最初から上手く、手つきも慣れていきます。回数を重ねていくと徐々にうまくなり、最後は皆、遠くまで飛ばすことができました。

## 流しそうめん

ちびっ子コラボ一番人気は、流しそうめんです。普段なかなかできない体験なので、子供たちも大喜び!!そうめんを流す方の役に回ったり、上手にそうめんをすくったり。そうめんじゃないものが流れてきて大笑い!!お年寄りも子どもたちの笑顔に自然と顔がほころびます。



## カラフル石鹸作り



石鹸作りは、親子・お友達・おじいちゃん・おばあちゃんと参加。みんな一人一つ個性あふれる石鹸が完成しました。アロマオイルを入れ、自分だけのオリジナル石鹸は「使うのがもったいないから玄関に飾っておく」と言ってくれる子もいました。

## 書道

書道では学校の宿題をしました。見本は師範の先生が書いてくれるので自分だけの見本がもらえ、完成度も高いです。上手に指導してもらえる為、子どもたちも集中して取り組むことができ、心も鍛えられました。

上手に指導してもらえる為、子どもたちも集中して取り組むことができ、心も鍛えられました。



## スライム作り

スライム作りは子どもを真似てお年寄りもこねたり混ぜたり...お互いに手伝いながら皆さん思い思いのスライムが完成しました。キラキラ入りを完成させたちーちゃんは、終わってからスライム作りにはまって、その後もたくさんのスライムを作ってみなさんに配ってくれました。



### 毎年 大人気の 野球観戦



野球がお好きな入居者さんが多く、ナゴヤドームに野球観戦に行くことも、毎年恒例の夏の光景となりました。今シーズンもすでに3回、ナゴヤドームへ野球観戦に行かれました。その中から、樋田よし子さん、森新二さん、柏原杉義さん、山内正子さん、石原孝子さんの様子についてご紹介します。

#### 樋田よし子さん

西館に入居されて4年目の樋田よし子さん。よしさんは、大の野球好きで、中日ドラゴンズの大ファンです。テレビで野球中継をやっている時は、テレビの前で全力で応援しておられます。入居されてから、野球観戦の外出計画がある度にお誘いしていましたが「トイレが近くて心配だから行けない」といつも断られていました。しかし、今年になって、何気なく野球観戦の話をしてみると、「行きたいなあ」と言われ、その日から野球観戦への外出を前向きに考えて下さるようになりました。そして今年の6月28日、入居されて4年経って、念願の野球観戦に外出することができました。試合が始まると、大きな声で一生懸命に応援しておられ、見事!!ドラゴンズが勝利を収めました。よしさんは、感動で涙をポロポロ流され「生で観る野球はやっぱりいいなあ。来てよかった」と大変喜んでおられました。数日後「また野球観戦に行きたい」とよし子さんより希望があり、8月22日、今年2回目の野球観戦に外出しました。その日の試合は、残念ながら負けましたが、よしさんは落ち込むことなく、次の野球観戦への外出を楽しみにされていました。

これからも、野球観戦に外出し、よしさんと楽しめる時間を作っていきます。(秋田智香)



ドラゴンズが負けてしまい思わず涙のよし子さん



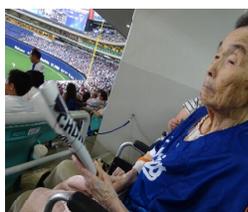
#### 柏原杉義さん

根っからの巨人好きの杉義さん。退院後は少しお元気がなく「行けるかなあ」と心配しましたが、名古屋ドームへ着くと「行け、坂本!」「そんなんではあかん!」と応援に熱が入ります。お弁当もペロリと平らげ「今日は本当に来てよかった、来れると思わなかったからな」と。また来年も森さんと一緒に観戦に行こうと約束しました。(浜嶋いづみ)



#### 石原孝子さん

3月にすずの郷に入居された石原孝子さん。入居時より、食事の際のむせ込みがあり、外出については様子を見ていましたが、状態が安定し、ちょうど8月が誕生日だったため、お誕生日祝いとして大好きな野球を観に出掛けられました。孝子さんにとっては、入居して初めての長時間の外出。体に無理はないか、様子を見ながらの外出でした。試合が始まると、メガホンを振って、一生懸命応援!!その日はドラゴンズが大量失点で、8回くらいになると周りのお客さんが帰りはじめましたが、孝さんは「最後まで観ます」とはっきり言われ、最後まで応援しました。「今度は勝つ試合を観たい!!」と次への試合に意気込む孝子さんでした。(佐久間恵美)



誕生日おめでとうございます!!

試合終了まで釘付けだった孝子さん

#### 山内正子さん

大の中日ドラゴンズファンの正子さん。今年は2度、ナゴヤドームへ行きました。スタッフからドラゴンズのユニホームを借りてノリノリで出発!!会場でも、応援に合わせメガホンを振り、選手の名前を言いながら応援されていました。(柴田英里)



思わず応援に熱が入る正子さん

#### 森新二さん

巨人が大好きな森さん。好きな選手は原辰徳。今回入居されて初めてそして何十年ぶりの野球観戦にナゴヤドームへ行かれました。以前はソフトボールの審判をされており「つつい審判側の目線で観てしまう」と言われていました。大好きなビールを飲みながら、応援グッズを買い応援しましたが、残念ながら4対1で負けてしまいました。野球観戦の前にも小牧市民球場で高校野球の予選を観戦して野球シーズンを楽しんだ森さん。「来年も野球を観に行きたい」と言われ、今度は巨人の勝ち試合の時に観戦したいです。(野田正史)



### 三輪田きみさん きみさんの ルーツを探る旅

「新川町に4人兄弟の一番上として生まれ、東海銀行で10年働いた」とお話くださった三輪田きみさん。今回のお出かけは、きみさんが思い出すままに稲沢や新川をドライブする事にしました。お話を伺いながら紙とペンをお渡しすると「坂町」と書かれたので、ナビで検索しましたが見つかりません。ひとまず、昔働いてみえたという東海銀行(現在の三菱東京UFJ銀行)新川支店に向いました。

名前や建物もきみさんが働いてみえた頃とは、すっかり変わっていますが、銀行の雰囲気懐かしいのか目をキラキラさせながら「あの頃が一番良かったな」と若い頃を思い出してみえました。続いて「坂町」探しに清州市役所へ。昔からみえる方は「土器野」という地名の事を坂町という事が分かり、その辺りをゆっくりドライブしながら思い出話を伺っていると、1軒の洋品店からおばあさんが出て来られました。きみさんの顔を見つめ「見覚えがある気がする...大野さんじゃなかった?」と。実際にきみさんの旧姓は大野さん。その方は87歳で直接関わりはなかった様ですが、20代で稲沢へ嫁いでみえたきみさんの事を覚えておられ「また来てちょう」「元気でね」と握手を交わし、新川を後にしました。きみさんが暮らしてみえた頃とは随分変わっていた様ですが、今回、きみさんの若い頃のお話をじっくり聞く事ができ、今まで以上にきみさんを知る機会になった素敵なドライブでした。(小南友華)



おそらく...昔働いていたであろう職場の銀行へ



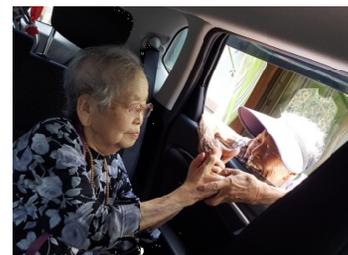
喫茶店で休憩しながら...実家の住所を書いて思い出していただきました



銀行に入ってみました 雰囲気が懐かしいな



清須市役所に行って坂町について尋ねてみました



きみさんのことを知っている方に偶然遭遇!!

